

『エムシー・ファーターコム』誕生

～ 三菱商事の肥料会社 5社統合

三菱商事（株）、宇部興産（株）及びトモエ肥料販売協同組合連合会は、2008年8月1日付でトモエ化学工業（株）、宇部興産農材（株）、コウノシマ化成（株）、ダイヤケミカル（株）、播州ケミカル（株）を合併することに合意した。新会社名は、『エムシー・ファーターコム株式会社』。新会社の社長はトモエ化学、ダイヤケミカルの社長である高野俊行氏で、早速取材したところ、新会社の概要・ビジョンの説明、並びに顧客への力強いメッセージがあった。

新会社の概要、名前の由来は？

まず、新会社の名前『エムシー・ファーターコム』の由来を聞いた。エムシー・三菱商事【mitsubishi corp】の英語名とファーターライザー【fertilizer（肥料）】とコミュニケーション【communication】の造語である。実はここに新会社の企業理念、意志が表れている。5社は、それぞれ今日に至る歴史、企業文化、商品力、技術力が違う。今日に至る発展も、お客様の支援・協力があったればこそで、5社を統合し融和を図りそれぞれのお客様、生産者としっかりコミュニケーションをとっていききたい。

新会社の所在地は、東京都千代田区麹町1-10（麹町広洋ビル）。幾つか物件があったが、東京メトロ半蔵門線半蔵門駅徒歩1分、出張に便利で来訪者の交通の便の良いところ、また当ビルのオーナーが三菱グループの関連会社で、新会社に理解があり決定した。事務所はワンフロアで収まり、社員融和並びに早い意思決定にも向いている。

営業所は札幌、東京、名古屋、大阪、宇部、福岡。工場はいわき・小名浜（福島県）、神島（岡山県）、佐用（兵庫県）、宇部（山口県）。資本金約9億円、売上高約300億円、従業員数約360名の企業になる。

商品は、化成肥料・緩効性肥料・アミノ酸肥料・微量要素肥料・液肥など多岐に渡る。東西に6工場を有し、取扱量は肥料製品22

（次ページへ続く）



最近の肥料メーカー合理化の状況

H13年3月	旭化成延岡工場 三菱化学小名浜・日産化学へ生産委託
5月	チッソ硫酸加里製造プラント停止
6月	日産化学硫酸加里製造プラント停止
10月	日産化学工業肥料事業統合 日産アグリ
11月	多木化学硫酸加里製造プラント停止
H14年3月	三菱ガス化学新潟工場尿素プラントの停止三井化学への生産委託
3月	菱北化成(株)肥料事業の譲渡 ホクレン肥料(株)
4月	三菱化学(株)肥料事業の分社化 三菱化学アグリ(株)
7月	信越化学工業肥料事業をコープケミカルに譲渡
9月	日本化成(株)肥料事業統合 三菱化学アグリ(株)
H15年3月	三菱化学アグリ(株)合併吸収 菱化農芸(株)
3月	宇部興産(株)子会社宇部興産農材(株)の株式を三菱商事(株)に譲渡
4月	川崎製鉄 アドテムコの硫安事業統合、「JFEケミカル」の設立
5月	中央資材(株)合併吸収 日産アグリ(株)
H16年4月	セントラル硝子・日本合同肥料事業統合 セントラル合同肥料
6月	コープケミカルが朝日工業の株式を取得 業務提携
H18年7月	チッソ 三菱化学アグリ黒崎工場に生産委託
H19年1月	日産アグリ(株)・三井東庄肥料(株)事業統合 サンアグロ(株)
1月	チッソ旭肥料チッソ(株)と旭化成ケミカルズの肥料部門吸収統合
4月	日東バイオン・アグリメイト住商農産事業統合 住商アグリビジネス
H20年5月	住友化学株と多木化学(株)合併会社 ティーエスアグロ(株)
7月	住友化学と三井物産グループ業務提携

(前ページより続く)

万トン、内機能商品7万トン、その他肥料原料・化成品16万トンと、総生産量では国内トップクラスになる。エリア展開と相互補完で効率的に全国展開を整え、市場の期待と信頼に応えていきたい。

新会社のビジョン、コア・コンピタンスは？

新会社は肥料製品の1/3が機能製品を占めるが、それを支えるのが5社の生産技術と普及力である。5社統合効果の最たるものはその生産技術並びに普及力の相乗効果であり、その延長線上に新たな普及技術の開拓と新商品の開発がある。機能製品は汎用的な化成肥料に比べ「より土や植物にやさしい」「より手間がかからない」「より美味しい味を引き出す」などの特徴を持っており、時代が求める「安全・安心を担保した、環境に優しい生産性・品質向上」に貢献する肥料作りは新会社のビジョンの1つである。また、常に「チャレンジ精神」豊かな会社を目指し、明るく、前向きな社員・社風を築き上げていくことを新会社のコア・コンピタンスとしたい。市場ニーズに適した商品力・事業力をコミットメントできる会社を目標に、「農家の皆さんが作った作物に誇りを持つ」そういう貢献を通して農家の皆さんの期待に応えたい。(次号に続く)

* コア・コンピタンス：競合企業には真似できない、事業の核となる能力

「食の安全」を大いに語る

当社 上杉社長 関西CPF会で講演

6月19日、リッツ・カールトン大阪で開催された「関西CPF会」総会で、当社上杉社長が「食の安全」と題し2時間近くの講演を行った。「関西CPF会」とは三菱商事・関西支社化学品部の主要取扱品、Chemical, Plastic, Fine-chemicalの頭文字を冠した三菱商事系化学品商社の会で、当日約50名の関係者が参集された。

相次ぐ食品の安全に関する不祥事の中、上杉社長は生産現場でのGAPと加工現場でのHACCPの導入促進を訴え、同時に環境サミットを控え、CO2削減と水資源危機を食糧自給と絡め問題提起した。更に農業の活性化のため農業生産の自由化と農商工が連携した新たな枠組みを訴えた。食の安全から広範囲な農業全般に亘る問題提起に、参加者からは、改めて農業の重要性を再認識したとの声が寄せられた。



日本GAP協会新体制決まる

日本GAP協会は、6月24日(火)午後、臨時総会を開催し新理事体制を決めた。同協会が普及促進しているJGAPは、5月31日現在で認定農場数が225に達したが、同協会は一層の普及拡大を図るため、農業生産者に加え農産物の買い手となる小売、外食、中食業界各社、団体並びに消費者代表、GAP普及・指導・組織運営を担う会社、個人を新たに理事として選出した。食品流通大手のイオン、イトーヨーカ堂、日生協、CGC並びに日本フードサービス協会、消費者代表として主婦連合会が理事に就任したことで、生産者・食品流通・消費者の3グループがJGAP普及で歩調を合わすことになった。理事長には、農水省元事務次官 高橋正行氏が個人の資格で就任する。当社上杉社長も理事としてより一層のJGAP普及に努める。

野菜の生長の特性を生かして、変わった形の野菜がにわかにブームになっているとか。キュウリを星型の筒に入れて成長させると、輪切りにした時に星型のキュウリに。これなら野菜嫌いのお子様でも喜んで野菜を食べてくれそうな、楽しい食卓に。ご自宅のプランター等で挑戦してみたいはかが？

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp